格差広がるドラッグストアの「ウエルシア」と「ツルハ」要因は買収か

ドラッグストア業界でトップと2位の格差が拡がってきた。最大手のウエルシアホールディングス＜3141＞が順調に業績を伸ばしているのに対し、二番手につけるツルハホールディングス＜3391＞が2022年5月期に売り上げがマイナスに転じたのに加え、2023年5月期も伸び率はウエルシアを下回る見通しだ。両社の勢いの差はどこにあるのか。詳細を見てみると。

M＆Aによる店舗増加数の差は300店強

ウエルシアは2023年2月期の売上高が11.5％の増収となり、一気に1183億円（売上高は1兆1442億7800万円）ほどを積み上げた。一方のツルハの2023年5月期の業績予想は、売上高は5.8％の増収で、531億円（同9688億円）の増額に留まる見通しだ。

両社ともに同業者との競争が激化する中、調剤併設店の増加や薬局機能の強化などに取り組み、増収を実現しているが、伸び率に差がついた要因として店舗網の拡大とM＆Aを上げることができる。

【ウエルシアホールディングスの売上高と営業利益の増減率】

【ツルハホールディングスの売上高と営業利益の増減率】2023年5月期は予想

ウエルシアは2023年2月期に140店を新規に出店し36店を閉店しており、純増は104店となった。ツルハは2023年5月期第3四半期までに111店を新規に出店し63店を閉店しており、純増は48店に留まった。

さらにM＆Aでは、ウエルシアは2022年に、沖縄県内で25店舗のドラッグストア運営するふく薬品（那覇市、売上高69億7000万円）と、大阪で162
店舗のドラッグストアを展開するコクミン（大阪市、売上高398億円）と、その兄弟会社であるドラッグストア3店舗を運営するフレンチ（同、売上高3億6700万円）の3社を子会社化した。

これに対し、ツルハは2023年5月期第3四半期時点では、M＆Aは1店舗の事業譲受に留まっている。これ以前のM＆Aは2021年に調剤薬局経営のたかきファーマシー（鳥取県米子市）から1店舗を取得した案件で、この2年ほどでM＆Aによる店舗増加数は2店舗のみとなっている。

ウエルシア2021年に中国・四国地方でドラッグストア123店舗を展開するププレひまわり（広島県福山市、売上高516億円）を子会社化しており、この2年間のM＆Aによる店舗増加数は313店舗に達する。

ウエルシアの2023年2月期の国内店舗数は2751店、ツルハの2023年5月期第3四半期時点の国内店舗数は2571店。その差は180店のため、M＆Aによる影響の大きさが分かる。

このまま格差は広がり続けるのか、それとも反転して縮まるのか。M＆Aが左右する可能性は低くはなさそうだ。

文：M＆A Online編集部